

平成22年度第1回兵庫県スポーツ振興審議会 議事録

- 1 期日・場所 平成22年9月14日(火) 10:00~12:00  
兵庫県民会館 12階「1202」  
〒650-0011 神戸市中央区下山手通4丁目16-3
- 2 出席者 (委員13名)
- |      |                 |      |      |
|------|-----------------|------|------|
| 和田委員 | 小山委員            | 東田委員 | 飯田委員 |
| 平松委員 | 山口委員            | 平川委員 | 増田委員 |
| 田中委員 | 寺見委員            | 山中委員 | 大寺委員 |
| 三木委員 | (欠席：田名網委員、松本委員) |      |      |
- (幹事8名)
- |       |      |       |      |
|-------|------|-------|------|
| *黒川幹事 | 藤森幹事 | *手塚幹事 | 柳瀬幹事 |
| 畠幹事   | 濱田幹事 | 開幹事   | 高見幹事 |
| 永井幹事  | 小林幹事 |       |      |
- (欠席：大谷幹事、林幹事 \*印は代理出席)
- (教育委員会) 溝口教育次長
- (事務局) 船田副課長 八木副課長 島田係長  
大崎主任指導主事 東主任指導主事 坂本指導主事
- 3 開会あいさつ 教育委員会事務局 溝口教育次長
- 4 委員・幹事紹介 司会者(島田係長)呼名による委員紹介  
及び紙面による幹事紹介
- 5 署名委員の指名 署名委員は、平松会長の指名により、次のとおり決定された。  
山中委員 三木委員
- 6 前回議事録の報告  
平成21年度第2回スポーツ振興審議会における報告事項3件及び審議事項3件について八木副課長が説明し、承認された。
- 7 報告事項  
平成22年度の事業概要について  
(1) 体育保健課に関する事業概要及び県立総合体育館で8月に発生した食中毒の状況について、濱田体育保健課長が報告した。  
(2) スポーツ振興課に関する事業概要について、永井スポーツ振興課長が報告した後、「神戸マラソン」の開催について八木副課長が報告した。

- (3) 障害者支援課に関する事業概要について、田畑障害者支援課社会参加支援係長が報告した。

## 8 審議事項

- (1) 兵庫県生涯スポーツ振興基計画（スポーツルネサンス・プラン）の改定について「現状」ならびに「平成22年度県民スポーツ意識調査」について、八木副課長が説明し、委員より報告書の監修の内容や分析方法について意見交換が行われた。計画改定の「今後の進め方」について八木副課長が説明し、「国の新法、新計画公表後に県計画の改定をすることが適当である。」と意見決定された。また、計画の内容については、「平成22年度県民スポーツ意識調査の結果の詳細な分析を行い、『兵庫県らしい』計画の策定をすること」との意見がまとめられた。

## 9 その他の事項

委員の主な意見及び事務局の説明

- (1) 報告事項：体育保健課事業概要について

県立学校体育施設開放の現状並びに運営方法について、地域スポーツクラブと連携し、新たな活動場所の開拓や運営について検討願いたい。

「運動プログラム」実践推進事業について、「兵庫県の子どもの体力・運動能力を向上させるためには、身体活動量を増加させるしかない。」という現状を学校現場に理解していただいた上で、「運動プログラム」の実践について、学校現場と連絡に密に行い、周知をお願いしたい。

- (2) 報告事項：スポーツ振興課事業概要について

神戸マラソンの制限時間が7時間ということであるが、距離ごとに関門はあるのか。

（事務局の説明）

距離ごとに設定する。

制限時間は、絶対に設けなければならないのか。

（事務局の説明）

制限時間を設けるということは、交通規制の関係で県警と調整し、何時間であれば、近隣住民を含めて迷惑がかからずに大会を開催できるのか。また、日本陸連と協議し、コース等を考慮した上で参加者ができるだけ完走できるよう、7時間という時間を設定した。

コースは海辺を沿って走るコースが多いので、船からの応援など海からのアプローチも検討してみてもいいか。

コース沿道にある幼稚園や施設などと連携についても安全対策で難しいかもしれないが、交流事業等について検討いただきたい。

神戸マラソンは、東、西の2コースで検討し、様々な観点から、西コースに決まった。7時間の制限時間についても、時速6kmのスピードウォークであれば、完走が可能である。通常は、時速4kmで歩くので、市民マラソンと位置づけて大会

を開催するので、参加者も比較的参加しやすいというねらいがある。

また、コース決定前に市政アドバイザーと県民モニターを中心にアンケート調査を行ったところ、神戸マラソンに対する期待が高いことが伺えた。今後は、海上利用の件など、いろいろな意見を実行委員会に出していただきたい。

神戸マラソンの開催1ヶ月前に、大阪で市民マラソンが開催されるが、神戸マラソンのアイデアは参加者を集められると考えている。

ふれあいまちづくり協議会など、地域の団体と連携についても検討いただきたい。幼児の参加プランも組んでいただきたい。

神戸マラソンは、ファミリーの部をポートアイランド内で開催するので、家族と一緒に幼児が参加できる場を考えることも可能である。

7時間という時間制限によって、競技性は薄らぐが、2万人参加ということで初心者の参加も多いかと思う。安全の視点についても、ぜひ、気を配っていただきたい。

東京マラソンでは、ドクターチームが走るなど、いろいろな団体がサポートしており、神戸マラソンについても安全面の対策は必要である。

「スポーツクラブ21ひょうご」で障害者が活動する情報があれば、情報提供をお願いしたい。また、神戸マラソンは、障害者も強い関心を示しており、今後、障害者の参加に向けた検討もお願いしたい。また、他府県からの参加者も多いかと思うが、地元の参加者の大切にすることもお願いしたい。

#### (事務局の説明)

県下には障害者が参加しているクラブも少ないがある。今後は、広域スポーツセンター等を通じて、情報発信に努めたい。

車いすマラソンについては交通規制上、一般ランナーとの速度の違いなどによる様々な問題があり、現段階では難しいと考えている。参加者については、先着順と抽選があり、実行委員会内で協議を進めている。いろいろな面で特色ある大会にしたいと考えているので、ご意見を踏まえ検討したい。

マラソンの開催では安心、安全な大会を開催することが基本だが、例えば、ホノルルマラソンでは、各地点に、水や栄養補助食品を配置されている。マラソンでは、約6,000カロリーのエネルギーは消費すると思うので、一般の方の参加については、安全への配慮が必要である。協賛企業からの食品提供のお願いや参加者へのホームページ等を活用した注意喚起をお願いし、安心、安全については、何よりも配慮していただきたい。また、ボストンマラソンでは、仮面などを被ってパフォーマンスをした参加者も多く見受けるので、神戸マラソンにも取り入れて一般の方も楽しめる内容になればと思う。

神戸マラソンは、記者発表等で見したが、すばらしい大会であると思う。私は、10年前にホノルルマラソンの取材を行った際、当時の実行委員会会長から「大会運営で何が一番大切か？」について話を聞くことができた。1番大切なのは「ボランティアの力」であり、大会運営を支えている。2点目は、参加者で練習をあまりしないで参加する日本人が、途中リタイアするケースが多く見受けられることから、参加者すべてが完走できるよう「参加者のトレーニングを積んだ上での参加」を記

事にしてほしいとのことであった。

(事務局の説明)

現在、ボランティアリーダーと通訳のボランティアの募集を行っており、一般ボランティアと合わせ活躍してもらうよう計画している。

(3) 審議事項：兵庫県生涯スポーツ振興計画について

現状について(県民スポーツ意識調査)

過去1年間の運動・スポーツ実施率について、比較しているが、過去の調査と同じ質問内容か。

質問内容は、内閣府「体育・スポーツに対する世論調査」と同じとなっているが、内閣府調査は「過去1年間に実施した人」が、各設問に答えるようになっている。平成9、18年については、「不明」という項目があり、「全く運動スポーツ行わなかった」という項目がなかったため、「不明」についても、実施率の反映されていた。今回の調査では、「全く運動・スポーツを行わなかった」という項目を新たに加えて、「不明」を実施率から除外している。

今回の調査では、週1回以上の実施率が54.5%と全国平均より10%も高い結果となった。参考までに、8月に国から出された「スポーツ立国戦略」では、新たに「週3回以上、運動・スポーツを実施する人の割合を30%にすること」を目標としている。今回の兵庫県調査では26%となっており、国の目標値に近い。

平成9、18年、22年の3回の調査では、運動・スポーツの定義は同じか。

(事務局の説明)

22年度の調査では、地域スポーツ・検証部会で協議し、運動・スポーツについて注釈を加えた。内容は「通勤途中等で意識的に行うウォーキングやサイクリングを運動・スポーツに含む」としている。

今回、回収率が49.4%と非常に高く、スポーツに関心のある県民が増えてきたと思う。

調査結果を踏まえ、施策に反映いただきたい。

スポーツ実施率を見ると、年齢が高くなるにつれて、あがってきている。男女別、年齢別についてわかれば教えていただきたい。

地区別に集計も行っているので、次回審議会で概要説明をお願いしたい。

障害者スポーツのボランティア活動に関する項目で「スポーツ大会・イベントの運営等」では、約1,400の有効回答のうち、146名が興味を示している。このような数字についても、他の都道府県等で比較する調査があれば、兵庫県として施策に反映できるのではないか。

速報版ということで今回は仕方ないが、報告書では、前回比較を図等で表していただきたい。また、地域差が運動行動に関係するところがあれば、クロス集計などがあるとより詳しい分析ができると思う。

今後の進め方

県計画改定については、スケジュール変更はいたしかたない。これからの進め方については、スポーツ立国戦略を理解した上で進めていることが大切であるが、今

回の県民調査を徹底的に分析して、兵庫県の課題を明確にした上で、計画に取り入れることが大切である。国の政策と兵庫県独自の政策の双方から進めて行ければと思う。

県民調査の自由記述の内容も参考にして、検討を進めることが大切である。

今回の「立国戦略」の「世界で競うトップアスリート育成・強化」の施策の中で、障害者スポーツについて述べられており、県計画についても目標に掲げていただきたい。

県民スポーツ意識調査については、詳細な分析を行っていただき、次に活かす必要があると思う。

「立国戦略」では、学校体育との連携や部活動についての記載がある。県の計画についても参考としていただきたい。

スポーツ振興、健康の増進という面では、人づくりと環境の整備が必要である。人づくりについては、子どもたちにスポーツの持つ意義を伝え、コミュニケーション能力を培い、社会性を身につける教育的な計画としていただきたい。また、環境づくりの面では、社会体育の面から、学校体育をサポートする体制が必要である。

競技スポーツと生涯スポーツという言葉があるが、競技スポーツというと「勝敗を争う」「競技をする」というイメージがあるが、誰もがスポーツに参加できる競技スポーツの新しい概念を作っていかなければと思う。県民一人ひとりが楽しんでスポーツに親しめる環境を作っていく必要がある。

「立国戦略」の中で、「ライフステージの応じたスポーツ機会の創造」がある。年齢に応じた体力づくりが基本となるが、体力づくりで食育は欠かせない。貧血は、欧米では見られない日本独特の現象で、食生活との関連が指摘されており、今後、関係機関と連携した事業について、検討いただきたい。

国の政策を参考に、今回の調査を軸にした上で、「兵庫県独自のやり方」「兵庫県らしいやり方」があってもいいのではないかと。地域スポーツクラブの活用や民間等の連携を通じ、地域力を高めてアスリートの育成や生涯スポーツの振興を相互に進めていくことができればと思う。

日本のスポーツは、学校体育を中心に進んできたため、学校体育と社会体育が連携しながら進めていくことは、なかなか難しい。国が掲げている理想は素晴らしいが、結局は、各自治体が取り組んでいかなければならない。

「兵庫らしさ」は、いいキーワードだと思う。兵庫県は、メダリストも多く輩出しており、障害者スポーツの面でもリーダーシップの県である。兵庫県はスポーツについても日本の縮図として、「兵庫らしさ＝日本らしさ」と比喩されており、この「兵庫らしさ」は、これまでいい歴史を作ってきたと言える。

神戸市では、中学校の部活動の問題が大きい。小学校とのクラブの接続や指導者の問題など課題が多く、近隣校との合同実施や体育指導委員の活用などを検討している。一步一步、「兵庫らしさ、神戸らしさ」を作っていきたい。また、トップアスリートの力も有効活用していきたい。

今回の意見では、「兵庫らしさ」が1つのキーワードになったかと思う。国のスポーツ振興施策が変わったのは、平成12年に出された「スポーツ振興基本計画」か

らである。それまでは、「保体審答申」で方向性が示されただけであった。

兵庫県では、平成9年に県独自の計画を策定することを目標に県民スポーツ意識調査を実施し、平成10年度に中間まとめを行い、平成13年に「兵庫県生涯スポーツ計画」を策定した。今回も第3回目の県民スポーツ意識調査を詳細に分析して、県計画の策定を進めたい。

国においても、「スポーツ立国戦略」が示され、来年の通常国会で「スポーツ基本法」が提出される予定である。「スポーツ立国戦略」では、基本的な考え方として、「人(する人、観る人、支える(育てる)人)の重視が示されている。覚えている方も多いと思うが、のじぎく兵庫国体の基本理念は「ありがとう。心から兵庫から。」もう一つは、「する、みる、ささえる」であり、この理念は全国で初めてだと認識している。また、5つの戦略の一つである「ライフステージに応じたスポーツ機会の創造」についても、「兵庫県スポーツ振興計画」で「ライフステージ」について方針を示している。国では、兵庫県のこれまで取り組んできた理念が、10年後に示されることとなったが、兵庫県のスポーツに対する理念は国の追従ではなく、むしろ進んでいるのではないかと思う。

国の新しい内容は、週1回以上のスポーツ実施率に加え、週3回以上についても数値目標を30%としたことである。また、これまで、競技スポーツと生涯スポーツを分けて振興してきたが、今回、双方の循環についても方針が出され、トップアスリートの総合型地域スポーツクラブの活用についても来年度の国予算で300の拠点施設での活用や学校、地域、部活動との連携についても示されている。今後、県民スポーツ意識調査の分析を行い、兵庫県独自のプランづくりを進めていきたい。

県民意識調査の分析、考察を行い、県民のスポーツ環境が整うよう色々な視点から検討を進めていただきたい。

兵庫県では、国の計画が出される前から、新しい国体の開催やスポーツクラブ創設など先進的な取り組みを進めてきた。今後も、生涯スポーツ、競技スポーツとうまくかみ合うよう「兵庫らしさ」を計画に盛り込めたらと思う。

生涯スポーツ、競技スポーツが相対する形ではなく、障害者スポーツも含めたすべてが融合する方向で「兵庫らしさ」を示すことができればと思う。

兵庫県として新しいスポーツ振興システムを考えることも必要である。学校体育やトップアスリートに偏ったスポーツ振興ではなく、地域力や民間力などを活用した兵庫方式の構築をお願いしたい。

9 閉会あいさつ 濱田体育保健課長

10 閉 会

署名委員

氏名 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_